

ガーデンズ・バイ・ザ・ベイでの石川県プロモーション

シンガポールの人気観光地であるガーデンズ・バイ・ザ・ベイにおいて、毎年恒例のさくらまつりが始まりました。さくらまつりは、日本の桜をテーマにした季節展示イベントで、日本から運び込まれた本物の桜の木が会場を彩るほか、日本の特定地域をテーマに伝統的な街並みや景観を再現した装飾も施され、常夏のシンガポールにしながら桜や日本文化の雰囲気を楽しめることから、例年多くの来場者でにぎわう人気イベントです。11 回目の開催となる今年は、日本・シンガポール外交関係樹立 60 周年（SJ60）という節目の年にあたり、その主要な記念事業の一つとして実施されています。そして、そのような記念すべき年のテーマに、石川県が選ばれました。会場にはソメイヨシノなどの桜の木とともに、兼六園、野村家、那谷寺といった石川県を代表する名所が再現されています。さらに輪島塗、九谷焼、加賀友禅など、県が誇る伝統的工芸品も展示され、石川県の文化や歴史の魅力を多角的に紹介する空間となっています。開催に先立ち行われたオープニングセレモニーには、シンガポールのガン・キム・ヨン副首相兼通商産業相や、石川浩司駐シンガポール日本国大使をはじめ、各国の在シンガポール大使、日本の企業・行政機関のトップなど約 200 名が出席しました。ガーデンズ・バイ・ザ・ベイのフェリックス・ローCEO は挨拶の中で、「石川県は侍の町として栄え、歴史的な街並みや伝統工芸が今も息づく、日本の豊かな文化を象徴する地域である」と、本県の魅力を力強く紹介してくださいました。本イベントの開催にあたっては、事前にガーデンズ・バイ・ザ・ベイの担当者を石川県に招へいし、県内各地の観光地等を案内するスタディツアーを実施いたしました。実際に現地を訪れ、石川の歴史や文化についての理解を深めていただいたことで、石川県を大変気に入ってくださり、そこから得たインスピレーションをもとに今回の展示がデザインされました。彼らによれば、今年は例年以上に質の高い展示を作り上げることができたそうです。年間 900 万人近くが訪れ、マリーナベイサンズと並ぶシンガポールのランドマーク的存在であるガーデンズ・バイ・ザ・ベイで、これほど大々的に石川県を PR できるのは、極めて貴重な機会であると感じております。イベントは 3 月 13 日から 4 月 15 日までの約 1 か月にわたり開催されますが、この機会を通じて、海外の方々に石川県の魅力を存分に知っていただき、将来的に一人でも多くの方が本県を訪れてくださることを期待したいと思います。



会場の様子



オープニングセレモニー



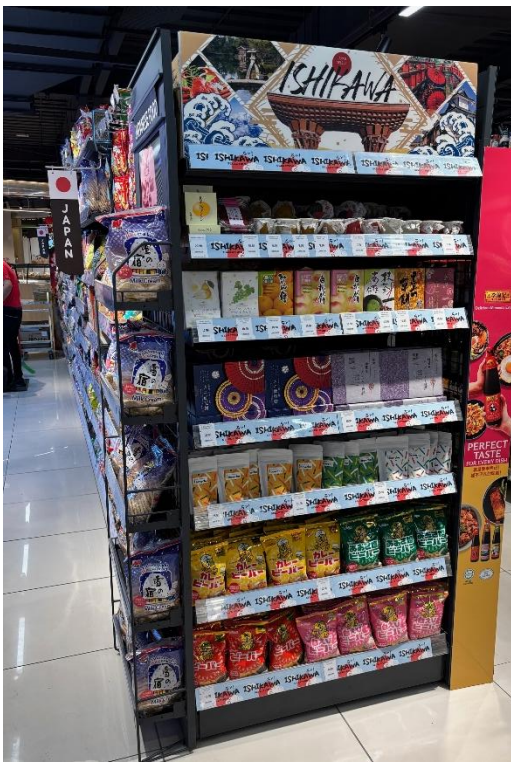
会場の随所にある観光地の解説



加賀友禅の展示

■マレーシア石川フェアの開催

2月中旬より、マレーシアの首都クアラルンプールにある AEON Maxvalu において、石川フェアを開催しました。富裕層が多く居住するエリアに位置する 3 店舗を対象に、県産の菓子類やお茶などを中心とした商品を販売し、石川県の魅力ある食品を PR しました。売れ行きの良かった商品としては、海外でも人気の高い餅を使ったスイーツやスナック菓子が挙げられ、いずれの商品も多彩なフレーバー展開と手頃な価格が特徴で、選ぶ楽しさがある点がお客様に好評でした。一方で、試食を提供しないと魅力が十分に伝わりにくい商品や、競合品と比べて価格が高めでなかなか手に取ってもらいづらい商品もあり、そうした商品をどのように訴求していくかが今後の課題となりました。今後 AEON 側からのフィードバックも踏まえ、課題の改善を図り、今後のさらなる販路の拡大につなげていきたいと思いをします。



■帰任のご挨拶

3月末をもちまして約3年間にわたるシンガポール駐在の任期を終え、帰任することとなりました。振り返れば、この3年間は数えきれないほど多くのイベントを駆け回り、常に現場の最前線で走り続けた日々だったように思います。その中で本当に多くの経験と学びを得ることができ、また、多くの方々との出会いにも恵まれました。ここまで走りきれたのは、私に関わってくださった皆さま、支えてくださった皆さまのおかげです。改めて心より感謝申し上げます。4月からは後任へとバトンを渡すこととなりますが、今後もシンガポール事務所に変わらぬご支援を賜れますと幸いです。3年間、本当にありがとうございました。